

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-129	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 I 711	深進 数学 I		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい例や説明から始めて、学習の便宜を考え、例題は精選して取り扱い、計算力はもちろん、数学の見方や考え方を理解し、数学の知恵も養えるように配慮して編修しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色（号番号は教育基本法を表す）	該当箇所
教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> 章末に「Beyond Math」を設定し、幅広い知識と教養を身に付けられるようにしました。(第1号) 目的意識をもって学習に臨めるよう、各章扉にその章で学習する内容に関する身の回りの話題を記載し、自主及び自律の精神を養えるようにしました。(第2号) 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「コア編」と「探究編」の2部構成として学習内容を習熟度に合わせて選択できるようにしました。(第2号) 	<p>p. 44, 84, 104, 142</p> <p>p. 7, 45, 85, 105, 143</p> <p>p. 7～と p. 169～</p>

巻頭	・巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号)	p. I, 1~6
第1章 数と式	・クラス委員を選挙で決める題材を扱い、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじることができるようにしました。(第3号) ・ π の歴史を取り上げ、幅広い知識と教養を身に付け、真理を追求する態度を養えるようにしました。(第1号)	p. 7 p. 44
第2章 2次関数	・マッチ棒を用いた関数の最大に関する題材を扱い、生活との関連を重視した取り組みができるようにしました。(第2号) ・車の制動距離に関する題材を扱い、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。(第4号)	p. 45 p. 84
第3章 集合と命題	・カードを扱った題材や論理パズルを扱い、ものごとの真理を求める態度を養えるようにしました。(第2号)	p. 85, 104
第4章 図形と計量	・展望台の建設に関する題材を扱い、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。(第4号) ・伝統と文化を尊重し、他国を尊重する態度を養うという観点から、15世紀のコペルニクスによる測定法を用いて、太陽系の惑星間の距離をもとめる題材を扱いました。(第5号)	p. 105 p. 142
第5章 データの分析	・職業および生活との関連を重視し、勤労を重んじる態度を養うという観点から、アイスクリームと気温に関する題材を扱いました。(第2号) ・主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、人口減少に関する題材を扱いました。(第3号) ・他国を尊重する態度を養うという観点から、「摂氏と華氏」、「アメリカのバスケットボール」、「ウインブルドン成績」に関する題材を扱いました。(第5号)	p. 143, 167, 198~199 p. 164~165 p. 151, 152, 157
巻末	・地球上の2点の最短距離を求める題材を扱い、生活との関連を重視する態度を養えるようにしました。(第5号) ・他国を尊重するという観点から、内容に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) ・主な数学用語の英語表現を示しました。(第5号)	p. 195 p. 202~203 p. 204~205
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特徴		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-129	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 I 711	深進 数学 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

(1) 2部構成にすることで、学習進度に応じた使用ができるようにしました。

必要な知識や技能を身につけるための「コア編」と、そこで身につけた知識や技能を深めるための「探究編」という2部構成にすることで、基礎から応用まで、様々なレベルに応じた学習ができるようにしました。また、「コア編」から「探究編」へのリンクを入れることで、スムーズな学習ができるよう心がけました。

(2) 例や例題を多く取り上げ、学習内容を総合的に理解できるように配慮しました。

本文をより深く理解することを助けるために、多くの例を取り上げて説明するように努めました。さらに、その知識の定着と応用力をつけるための例題を積極的に取り上げました。また、スパイラルに学習展開がなされるように配列を工夫しました。

(3) 図版や色刷りを効果的に用いて、説明は簡潔に要領よくまとめました。

文章の説明だけではわかりづらい内容については、図を用いてスムーズな理解ができるようにしました。また、問題に取り組む際の思考の過程を本文に書き添え、解決に至る道筋がわかりやすくなるようにしました。さらに、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけました。

(4) 枠囲みや下線などを利用し、学習の内容や要点がわかりやすい紙面構成にしました。

小見出しを適切に配置して、内容ごとのまとまりが明確になるよう心がけました。また、枠囲みを利用して学習の要点が一目でわかるようにしました。さらに、用語についてはそれを解説している部分に下線を引き、その用語が指す内容を適切に理解できるようにしました。そして、中学校での既習事項にはマークをつけることで、軽重をつけた扱いができるようにしました。

(5) 総合的な応用力を養えるように、問題の配置を工夫しました。

例、例題の後の「問」で学習内容の理解と定着をはかり、「節末問題」、「章末問題A」、「章末問題B」と段階を追って学習を進めることで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、理数教育の重視の観点から、進んだ内容を研究として取り上げました。

(6) 学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。

コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、コンピュータの画面を示して解説するとともに、QRコードも有効な場面では掲載し、その様子も見たりできるようにしました。さらに、QRコードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、関連事項や解説などを見ることができるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

中学校からのつながりを考慮して、「数と式」「2次関数」「集合と命題」「図形と計量」「データの分析」の順に配列しました。「課題学習」については、柔軟な取り扱いができるように「探究編」に配置しました。

各章および課題学習において留意した点は次の通りです。

第1章 数と式

絶対値に関連する内容は、配置・扱いを工夫して、スムーズに学習できるようにしました。

また、一次不等式を日常の問題解決に活用する姿勢を養えるよう、連立不等式の応用問題を扱いました。

第2章 2次関数

2次関数の最大・最小に関しては、グラフを利用して説明し、視覚的に理解できるように構成しました。2次不等式については、2次関数のグラフとx軸との位置関係から解をとらえるということを重視しました。また、コンピュータなどの情報機器を用いて、放物線の図形的な性質を考察する内容を掲載しました。

第3章 集合と命題

集合について多面的な見方ができるように、不等式の解を実数の部分集合とみることができていることを扱いました。命題について考える場合には、全体集合を定める必要があることに触れました。また、逆・裏・対偶の関係がわかりやすいように紙面を工夫しました。背理法を用いる証明については、その考え方を明示しました。

第4章 図形と計量

三角比については正接・正弦・余弦をまとめて導入することで、3つの三角比を関連づけながら取り扱うことができるようにしました。一般の三角形についても三角比から面積が求められることを説明し、空間図形についても三角比を使った計量問題を取り上げました。

第5章 データの分析

生徒が興味を持って取り組むことができるようなデータを例として取り上げるようにしました。また、ひとつのデータを様々な角度から分析する姿勢を養えるよう、例や問で同じデータを扱う問題を取り上げました。表計算ソフトの画面や関数を掲載することで、コンピュータなどの情報機器を用いた分析を行いやすくなるよう配慮しました。

課題学習

身近な題材や、自分で新しい問題や考え方を作る問題を取り上げ、主体的な学習につながるようにしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 数と式	(1)	p. 7～44, 170～172	21
第1節 多項式	(1)ア(ウ), イ(イ) ／内容の取扱い(1)	p. 8～21	8
第2節 実数	(1)ア(ア) ／内容の取扱い(1)(2)	p. 22～31	5
第3節 1次不等式	(1)ア(エ), イ(ウ)(エ)	p. 32～41	6
探究編 第1章 数と式	(1)ア(エ), イ(イ) ／課題学習と内容の取扱い(4)	p. 170～172	2
第2章 2次関数	(3)	p. 45～84, 173～187	28
第1節 関数とグラフ	(3)ア(ア) ／内容の取扱い(1)	p. 46～59	8
第2節 2次関数の最大・最小	(3)ア(ア)(イ), イ(イ)	p. 60～65	6
第3節 2次関数と方程式・不等式	(3)ア(ア)(ウ), イ(ア) ／内容の取扱い(1)	p. 66～81	9

探究 第2章 2次関数	(3)ア(ア)(イ), イ(イ) ／課題学習と内容の取扱い(4)	p. 173～187	5
第3章 集合と命題	(1)	p. 85～104, 188～189	8
第1節 集合と命題	(1)ア(イ), イ(ア) ／内容の取扱い(1)	p. 86～102	7
探究 第3章 集合と命題	(1)イ(ア) ／課題学習と内容の取扱い(4)	p. 188～189	1
第4章 図形と計量	(2)	p. 105～143, 190～195	23
第1節 鋭角の三角比	(2)ア(ア), イ(ア)	p. 106～114	5
第2節 三角比の拡張	(2)ア(イ), イ(ア) ／内容の取扱い(3)	p. 115～123	4
第3節 正弦定理と余弦定理	(2)ア(ウ), イ(ア) ／内容の取扱い(1)	p. 124～132	5
第4節 図形の計量	(2)イ(ア)(イ)	p. 133～139	6
探究 第4章 図形と計量	(2)イ(ア)(イ) ／課題学習と内容の取扱い(4)	p. 190～195	3
第5章 データの分析	(4)	p. 143～168, 196～199	10
第1節 データの整理と分析	(4)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(イ)(ウ) ／内容の取扱い(1)	p. 144～162	7
第2節 統計的探究プロセス	(4)イ(ア)(イ)(ウ)	p. 163～165	1
探究 第5章 データの分析	(4)イ(ア)(イ)(ウ) ／課題学習と内容の取扱い(4)	p. 196～199	2
			90

① 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-129	高等学校	数学	数学 I	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数 I 711	深進 数学 I		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
p. 20	3次の展開と因数分解	1	(1)ア(ウ) 二次の乗法公式と因数分解の公式に関連して、三次の乗法公式および因数分解の公式を扱います。	1
p. 41	2重根号	2	(1)ア(ア) 実数に関連して、2重根号をはずすことを扱います。	1
p. 74	放物線と直線の共有点	1	(3)ア(ウ) 二次方程式・二次不等式に関連して、放物線と一般の直線の共有点を求めることを扱います。	1
p. 81	放物線の図形的な性質	2	(3)ア(ア) 二次関数のグラフの特徴に関連して、放物線の相似について扱います。	1
p. 100	「すべて」と「ある」	2	(1)ア(ア) 集合に関連して、「すべて」や「ある」を含む命題の否定を扱います。	2
p. 131	三角形の形状	2	(2)ア(ウ) 三角形の決定条件に関連して、三角形の形状を扱います。	1
p. 138	ヘロンの公式	2	(2)イ(ア) 図形の計量に関連して、ヘロンの公式を扱います。	1
p. 171	対称式と基本対称式	1	(1)イ(イ) 式を多面的に捉えることに関連し、対称式や基本対称式について扱います。	1
合 計				9

(「類型」欄の分類について)

1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容

2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-160	高等学校	数学	数学A	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
61 啓林館	数A711	深進 数学A		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい例や説明から始めて、学習の便宜を考え、例題は精選して取り扱い、計算力はもちろん、数学の見方や考え方を理解し、数学の知恵も養えるように配慮して編修しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色（号番号は教育基本法を表す）	該当箇所
教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> ・章末に「Beyond Math」を設定し、幅広い知識と教養を身に付けられるようにしました。(第1号) ・目的意識をもって学習に臨めるよう、各章扉にその章で学習する内容に関する身の回りの話題を記載し、自主及び自律の精神を養えるようにしました。(第2号) ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「コア編」と「探究編」の2部構成として学習内容を習熟度に合わせて選択できるようにしました。(第2号) 	<p>p. 60, 98</p> <p>p. 7, 61, 99</p> <p>p. 7～と p. 117～</p>

巻頭	・巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号)	p. I, 1~6
第1章 場合の数と 確率	・くじの公平性や、ルーレットにおける確率の話題を取り上げ、真理を求める態度を養えるようにしました。(第1号) ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、バーコードのしくみについての話題を取り上げました。(第2号)	p. 53, 57 p. 60
第2章 図形の性質	・職業及び生活との関連を重視するという観点から、サッカーにおけるシュートや、ポロノイ図を利用した通学区域の設定の話題を取り上げました。(第2号) ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、ギリシャの三大作図問題を取り上げました。(第1号)	p. 61, 98 p. 88
第3章 数学と人間の 活動	・職業及び生活との関連を重視するという観点から、重りを利用した計量や、誕生日当て、チョコレートの詰め合わせ、カーナビやGPSの話題を取り上げました。(第2号) ・他国を尊重するという観点から、古代エジプトの象形文字や、ユークリッドの互除法、エラトステネスの測量の話題を取り上げました。(第5号) ・自他の敬愛と協力を重んずるという観点から、数学のゲーム等、作業性のある課題をおきました。(第3号) ・伝統と文化を尊重するという観点から、塵劫記の話題を取り上げました。(第5号)	p. 99, 103, 109, 111 p. 100, 104, 110 p. 112~115 p. 116
巻末	・職業及び生活との関連を重視するという観点から、原因の確率の問題を取り上げ、数学を利用して身のまわりの問題を解決できるようにしました。(第2号) ・他国を尊重するという観点から、内容に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) ・主な数学用語の英語表現を示しました。(第5号)	p. 132~133 p. 144~145 p. 146~147
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特徴		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-160	高等学校	数学	数学A	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
61 啓林館	数A711	深進 数学A		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

(1) 2部構成にすることで、学習進度に応じた使用ができるようにしました。

必要な知識や技能を身につけるための「コア編」と、そこで身につけた知識や技能を深めるための「探究編」という2部構成にすることで、基礎から応用まで、様々なレベルに応じた学習ができるようにしました。また、「コア編」から「探究編」へのリンクを入れることで、スムーズな学習ができるよう心がけました。

(2) 例や例題を多く取り上げ、学習内容を総合的に理解できるように配慮しました。

本文をより深く理解することを助けるために、多くの例を取り上げて説明するように努めました。さらに、その知識の定着と応用力をつけるための例題を積極的に取り上げました。また、スパイラルに学習展開がなされるように配列を工夫しました。

(3) 図版や色刷りを効果的に用いて、説明は簡潔に要領よくまとめました。

文章の説明だけではわかりづらい内容については、図を用いてスムーズな理解ができるようにしました。また、問題に取り組む際の思考の過程を本文に書き添え、解決に至る道筋がわかりやすくなるようにしました。さらに、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけました。

(4) 枠囲みや下線などを利用し、学習の内容や要点がわかりやすい紙面構成にしました。

小見出しを適切に配置して、内容ごとのまとまりが明確になるよう心がけました。また、枠囲みを利用して学習の要点が一目でわかるようにしました。さらに、用語についてはそれを解説している部分に下線を引き、その用語が指す内容を適切に理解できるようにしました。そして、中学校での既習事項にはマークをつけることで、軽重をつけた扱いができるようにしました。

(5) 総合的な応用力を養えるように、問題の配置を工夫しました。

例、例題の後の「問」で学習内容の理解と定着をはかり、「節末問題」、「章末問題A」、「章末問題B」と段階を追って学習を進めることで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、理数教育の重視の観点から、進んだ内容を研究として取り上げました。

(6) 学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。

コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、コンピュータの画面を示して解説するとともに、QRコードも有効な場面では掲載し、その様子も見たりできるようにしました。さらに、QRコードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、関連事項や解説などを見ることができるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学I」と並行して履修する場合を考慮し、まず序章として「数学I」の「集合」の内容を参考のために掲載した後、「場合の数と確率」「図形の性質」「数学と人間の活動」の順に配列しました。

各章において留意した点は次の通りです。

第1章 場合の数と確率

場合の数においては、数え上げの基本として樹形図を例とともに示すことでその有用性を認識させ、そこから順列や組合せの考え方につなげていく構成としました。

確率においては、基本的な概念について説明した後で具体例を提示するように記述を整理しました。また、後半の条件つき確率等については「いろいろな確率」という節を設け、代表的な問題を取り扱うことで理解が進むように構成しました。

第2章 図形の性質

スパイラルに学習を進めるという観点から、この章においては特に中学校までに学習した内容を復習しながら新たな図形の性質を取り上げていくという構成としました。

空間図形においては、コンピュータなどの情報機器を用いて、正多面体の性質を考察する内容を掲載しました。

第3章 数学と人間の活動

2進数を利用した誕生日当てや、ゲームやパズルを取り上げ、生徒が興味をもって取り組むことができるようにしました。

ユークリッドの互除法については、長方形をできるだけ大きな正方形で埋め尽くすときの、最大の正方形を求める手順を図で説明し、石取りゲームについては、ルールがわかりやすくなるよう、途中経過の図を入れるなど、視覚的に内容をとらえやすくなるように工夫しました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 場合の数と確率	(2)	p. 7～60, 118～133	31
第1節 場合の数	(2)ア(ア), イ(ア)	p. 8～17	4
第2節 順列・組合せ	(2)ア(イ), イ(ア)	p. 18～32	7
第3節 確率とその基本性質	(2)ア(ウ), イ(イ) 内容の取扱い(2)	p. 33～43	6
第4節 いろいろな確率	(2)ア(エ)(オ), イ(イ) 内容の取扱い(2)	p. 44～53	6
第5節 期待値	(2)ア(ウ), イ(ウ)	p. 54～57	1
探究編 第1章 場合の数と確率	(2)ア(ア)(イ)(ウ)(エ)(オ), イ(ア)(イ)	p. 118～133	7
第2章 図形の性質	(1)	p. 61～98, 134～141	25
第1節 三角形の性質	(1)ア(ア), イ(ア)	p. 62～73	8
第2節 円の性質	(1)ア(イ), イ(ア)	p. 74～84	7
第3節 作図	(1)イ(イ)	p. 85～88	2
第4節 空間図形	(1)ア(ウ), イ(イ)	p. 89～95	4
探究編 第2章 図形の性質	(1)ア(ア)(ウ), イ(ア)(イ)	p. 134～141	4
第3章 数学と人間の活動	(3)	p. 99～116	11
第1節 数学と歴史・文化	(3)ア(ア)(イ), イ(ア) 内容の取扱い(3)(4)	p. 100～111	9
第2節 数学とゲーム・パズル	(3)ア(イ), イ(イ)	p. 112～115	2
			67

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-145	高等学校	数学	数学Ⅱ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
61 啓林館	数Ⅱ708	深進 数学Ⅱ		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい例や説明から始めて、学習の便宜を考え、例題は精選して取り扱い、計算力はもちろん、数学の見方や考え方を理解し、数学の知恵も養えるように配慮して編修しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色（号番号は教育基本法を表す）	該当箇所
教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> 章末に「Beyond Math」を設定し、幅広い知識と教養を身に付けられるようにしました。（第1号） 目的意識をもって学習に臨めるよう、各章扉にその章で学習する内容に関する身の回りの話題を記載し、自主及び自律の精神を養えるようにしました。（第2号） 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「コア編」と「探究編」の2部構成として学習内容を習熟度に合わせて選択できるようにしました。（第2号） 	<p>p. 56, 100, 136, 166, 208</p> <p>p. 5, 57, 101, 137, 167</p> <p>p. 5～と p. 209～</p>

巻頭	・巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第1号)	p. I, 1~4
第1章 式と証明・高次方程式	・幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、相乗平均とは何かについて取り上げました。(第1号) ・高次方程式の解の公式に関する歴史を取り上げ、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました。(第1号)	p. 30 p. 56
第2章 図形と方程式	・職業及び生活との関連を重視するという観点から、線形計画法の話題を取り上げました。(第2号)	p. 100
第3章 三角関数	・幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、三角関数の合成を余弦の形に表す例を取り上げました。(第1号) ・音のうなりと三角関数の話題を取り上げ、幅広い知識と教養を身に付け、生活との関連を重視できるようにしました。(第2号)	p. 131 p. 136
第4章 指数関数と対数関数	・ガラスを重ねて光の強さを弱める問題や、バクテリアの増殖の問題を扱い、職業及び生活との関連を重視しました。(第2号) ・人間の感覚と対数の関係を取り上げ、生命を尊び、生活との関連を重視できるようにしました。(第2号)(第4号)	p. 162, 165 p. 166
第5章 微分と積分	・真理を求める態度を養い、生活との関連を重視するという観点から、落下と微分・積分の話題を取り上げました。(第1号)(第2号)	p. 208
巻末	・真理を求める態度を養うという観点から、条件を満たさない点の存在の確認を行う理由について扱いました。(第1号) ・真理を求める態度を養うという観点から、 $\log_{10}2$ の値を実際に求める方法について扱いました。(第1号) ・他国を尊重するという観点から、内容に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) ・主な数学用語の英語表現を示しました。(第5号)	p. 222~223 p. 230~231 p. 240~241 p. 242~243
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特徴		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-145	高等学校	数学	数学Ⅱ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
61 啓林館	数Ⅱ708	深進 数学Ⅱ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

(1) 2部構成にすることで、学習進度に応じた使用ができるようにしました。

必要な知識や技能を身につけるための「コア編」と、そこで身につけた知識や技能を深めるための「探究編」という2部構成にすることで、基礎から応用まで、様々なレベルに応じた学習ができるようにしました。また、「コア編」から「探究編」へのリンクを入れることで、スムーズな学習ができるよう心がけました。

(2) 例や例題を多く取り上げ、学習内容を総合的に理解できるように配慮しました。

本文をより深く理解することを助けるために、多くの例を取り上げて説明するように努めました。さらに、その知識の定着と応用力をつけるための例題を積極的に取り上げました。また、スパイラルに学習展開がなされるように配列を工夫しました。

(3) 図版や色刷りを効果的に用いて、説明は簡潔に要領よくまとめました。

文章の説明だけではわかりづらい内容については、図を用いてスムーズな理解ができるようにしました。また、問題に取り組む際の思考の過程を本文に書き添え、解決に至る道筋がわかりやすくなるようにしました。さらに、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけました。

(4) 枠囲みや下線などを利用し、学習の内容や要点がわかりやすい紙面構成にしました。

小見出しを適切に配置して、内容ごとのまとまりが明確になるよう心がけました。また、枠囲みを利用して学習の要点が一目でわかるようにしました。さらに、用語についてはそれを解説している部分に下線を引き、その用語が指す内容を適切に理解できるようにしました。そして、中学校での既習事項にはマークをつけることで、軽重をつけた扱いができるようにしました。

(5) 総合的な応用力を養えるように、問題の配置を工夫しました。

例、例題の後の「問」で学習内容の理解と定着をはかり、「節末問題」、「章末問題A」、「章末問題B」と段階を追って学習を進めることで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、理数教育の重視の観点から、進んだ内容を研究として取り上げました。

(6) 学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。

コンピュータを有効に活用することで学習内容の理解が深まる場面には、コンピュータの画面を示して解説するとともに、QRコードも有効な場面では掲載し、その様子も見たりできるようにしました。さらに、QRコードは学習効果が図れる場面に適宜入れ、関連事項や解説などを見ることができるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学Ⅰ」から「数学Ⅲ」への連絡を考慮して、「式と証明・高次方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分と積分」の順に配列しました。「課題学習」については、柔軟な取り扱いができるように「探究編」に配置しました。各章および課題学習において留意した点は次の通りです。

第1章 式と証明・高次方程式

3次の乗法公式と因数分解の次に二項定理を扱い、二項定理を理解しやすくしました。

不等式の証明については、理解がしやすい順序となるように配慮しました。また、相加平均と相乗平均の関係については、相乗平均を説明するコラムや、相加平均と相乗平均の関係を利用する際の注意などを丁寧に説明した「探究編」により、理解を深めやすくなるように工夫しました。

第2章 図形と方程式

円と直線の位置関係については、方程式を連立して得られる2次方程式の判別式を調べる方法と、円の中心から直線までの距離を調べる方法を取り上げ、多面的な見方ができるようにしました。

また、軌跡を求める際に除外する点の存在を確認する理由について「探究編」にて扱うことで、数学的な考え方を深めることができるようにしました。

さらに、領域における最大・最小を学習した後に、その実生活への応用例として線形計画法を「Beyond Math」として紹介しました。

第3章 三角関数

三角関数の性質を、図を使用して完結にまとめ、理解しやすいように工夫しました。

また、三角関数の合成を余弦の形に表す例をコラムで扱うことで、多面的な見方ができるようにしました。

第4章 指数関数と対数関数

指数を整数、有理数へと順次拡張し、その都度、指数法則が成り立つことを確認しました。

指数関数や対数関数を含む方程式・不等式については、例題から章末問題まで問題を複数扱い、段階を追って説明するようにしました。また、常用対数については、数の桁数を調べることや日常の事象における問題を取り上げました。

「探究編」では、常用対数の計算でしばしば用いられる $\log_{10}2$ の値を実際に求める方法について扱うことで、数学的な考え方を深めることができるようにしました。

第5章 微分と積分

関数の極値については、導関数のグラフを補助的に入れて、理解がしやすいように工夫しました。

また、微分と定積分の関係、面積と定積分の関係については、具体例から説明しスムーズに理解できるようにしました。

課題学習

身近な題材や、自分で新しい問題や考え方を作る問題を取り上げ、主体的な学習につながるようにしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 式と証明・高次方程式	(1)	p. 5～56, 210～217	30
第1節 多項式の乗法・除法と分数式	(1)ア(ア)(イ), イ(ア)	p. 6～18	7
第2節 式と証明	(1)イ(イ)	p. 19～32	7
第3節 高次方程式	(1)ア(ウ)(エ)(オ), イ(ウ)	p. 33～53	11
探究編 第1章 式と証明・高次方程式	(1)ア(ア)(ウ)(エ), イ(ア)(イ) ／課題学習と内容の取扱い(2)	p. 210～217	3
第2章 図形と方程式	(2)	p. 57～100, 218～224	25
第1節 点と直線	(2)ア(ア)(イ), イ(ア)	p. 58～75	11
第2節 円と直線	(2)ア(イ), イ(ア)	p. 76～85	5
第3節 軌跡と領域	(2)ア(ウ)(エ), イ(イ)	p. 86～97	4

探究 第2章 図形と方程式	(2)ア(ウ)(エ), イ(ア) ／課題学習と内容の取扱い(2)	p. 218～224	3
第3章 三角関数	(4)	p. 101～136, 225～227	20
第1節 一般角の三角関数	(4)ア(ア)(イ)(ウ), イ(イ)	p. 102～120	10
第2節 三角関数の加法定理	(4)ア(エ), イ(ア)(ウ)	p. 121～133	6
探究 第3章 三角関数	(4)ア(エ) ／課題学習と内容の取扱い(2)	p. 225～227	2
第4章 指数関数と対数関数	(3)	p. 137～166, 228～231	17
第1節 指数と指数関数	(3)ア(ア)(イ), イ(イ)	p. 138～149	6
第2節 対数と対数関数	(3)ア(ウ)(エ), イ(ア)(イ)(ウ)	p. 150～163	7
探究 第4章 指数関数と 対数関数	(3)ア(イ)(ウ) ／課題学習と内容の取扱い(2)	p. 228～231	2
第5章 微分と積分	(5)	p. 167～208, 232～237	28
第1節 微分係数と導関数	(5)ア(ア), イ(ア) ／内容の取扱い(1)	p. 167～177	7
第2節 導関数の応用	(5)ア(イ), イ(イ)	p. 178～189	7
第3節 積分	(5)ア(ウ), イ(ウ) ／内容の取扱い(1)	p. 190～205	9
探究 第5章 微分と積分	(5)イ(ウ) ／課題学習と内容の取扱い(2)	p. 232～237	3
			120

① 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-1	高等学校	数学	数学Ⅱ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数Ⅱ708	深進 数学Ⅱ		

ページ	記 述	類 型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
p.133	積を和，和を積に直す 公式	2	(4)ア(エ) 三角関数の加法定理に関連して， 三角関数の積を和に直す公式と和を積に直す 公式を扱います。	1
p.208	落下の法則	1	(5)ア(ウ) 微分と積分の関係に関連して，微 分方程式について扱います。	1
p.217	3次方程式の解と係数 の関係	2	(1)ア(エ) 2次方程式の解と係数の関係に関 連して，3次方程式の解と係数の関係を扱 います。	1
p.225	直線の回転	2	(4)ア(エ) 三角関数の加法定理に関連して， 直線の回転を扱います。	0.25
p.236	絶対値を含む関数の原 始関数	2	(5)ア(ウ) 絶対値を含む関数の定積分に関 連して，絶対値を含む関数の原始関数を扱 います。	1.25
合 計				4.5

(「類型」欄の分類について)

1…学習指導要領上，隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても，当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容

2…学習指導要領上，どの学年等でも扱うこととされていない内容

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-150	高等学校	数学	数学B	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
61 啓林館	数B709	深進 数学B		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい例や説明から始めて、学習の便宜を考え、例題は精選して取り扱い、計算力はもちろん、数学の見方や考え方を理解し、数学の知恵も養えるように配慮して編修しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色（号番号は教育基本法を表す）	該当箇所
教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識をもって学習に臨めるよう、各章扉にその章で学習する内容に関する身の回りの話題を記載し、自主及び自律の精神を養えるようにしました。(第2号) ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「コア編」と「探究編」の2部構成として学習内容を習熟度に合わせて選択できるようにしました。(第1号) 	<p>p. 5, 45, 99</p> <p>p. 5～114と p. 115～127</p>
巻頭	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第2号) 	p. 2～4

第1章 数列	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、等比数列の和を初項、末項、公比を用いて表す話題を取り上げました。(第1号) ・幅広い知識と教養を身に付け、職業及び生活との関連を重視するという観点から、複利法による返済の話題を取り上げました。(第1号)(第2号) ・生命を尊び、自然を大切にするという観点から、うさぎのつがいの数の問題を取り上げました。(第4号) 	p. 17 p. 44 p. 5
第2章 統計的な推測	<ul style="list-style-type: none"> ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、身のまわりの問題を分析する話題を取り上げました。(第2号) ・自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画するという観点から、選挙に関する話題を扱いました。(第3号) 	p. 94, 95 p. 45
第3章 数学と社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、取引先の依頼に応える課題や、定幅図形がマンホールや硬貨など身のまわりに利用されていること、そして暗号の話題を扱いました。(第2号) ・生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から、車の停止距離の話題を扱いました。(第4号) ・他国を尊重するという観点から、オリンピックにおける100m競走の優勝者の記録に関する話題を扱いました。(第5号) 	p. 104 ~ 105 , 106, 108, 109~113 p. 103 p. 100~102
巻末	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を求める態度を養うという観点から、有意水準1%の棄却域を求める課題を扱いました。(第1号) ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、偏差値の話題を取り上げました。(第2号) ・生命を尊び、自然を大切にするという観点から、ある種子の発芽率に関する問題を取り上げました。(第4号) ・他国を尊重するという観点から、内容に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) ・主な数学用語の英語表現を示しました。(第5号) 	p. 127 p. 125 p. 127 p. 130~131 p. 132
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特徴		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-150	高等学校	数学	数学B	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数B709	深進 数学B		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

(1) 2部構成にすることで、学習進度に応じた使用ができるようにしました。

必要な知識や技能を身につけるための「コア編」と、そこで身につけた知識や技能を深めるための「探究編」という2部構成にすることで、基礎から応用まで、様々なレベルに応じた学習ができるようにしました。また、「コア編」から「探究編」へのリンクを入れることで、スムーズな学習ができるよう心がけました。

(2) 例や例題を多く取り上げ、学習内容を総合的に理解できるように配慮しました。

本文をより深く理解することを助けるために、多くの例を取り上げて説明するように努めました。さらに、その知識の定着と応用力をつけるための例題を積極的に取り上げました。また、スパイラルに学習展開がなされるように配列を工夫しました。

(3) 図版や色刷りを効果的に用いて、説明は簡潔に要領よくまとめました。

文章の説明だけではわかりづらい内容については、図を用いてスムーズな理解ができるようにしました。また、問題に取り組む際の思考の過程を本文に書き添え、解決に至る道筋がわかりやすくなるようにしました。さらに、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけました。

(4) 枠囲みや下線などを利用し、学習の内容や要点がわかりやすい紙面構成にしました。

小見出しを適切に配置して、内容ごとのまとまりが明確になるよう心がけました。また、枠囲みを利用して学習の要点が一目でわかるようにしました。さらに、用語についてはそれを解説している部分に下線を引き、その用語が指す内容を適切に理解できるようにしました。そして、中学校での既習事項にはマークをつけることで、軽重をつけた扱いができるようにしました。

(5) 総合的な応用力を養えるように、問題の配置を工夫しました。

例、例題の後の「問」で学習内容の理解と定着をはかり、「節末問題」、「章末問題A」、「章末問題B」と段階を追って学習を進めることで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、理数教育の重視の観点から、進んだ内容を『参考』として取り上げました。

(6) 学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。

QRコードを学習効果が図れる場面に適宜入れ、関連事項や解説などを見ることができるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学C」との連絡を考慮して、「数列」「統計的な推測」「数学と社会生活」の順に配列しました。各章において留意した点は次の通りです。

第1章 数列

具体例を示しながら数列を導入し、その後で等差数列、等比数列とその和について習熟できるようにしました。等差数列、等比数列の和については、わかりやすくなるような図を導入しました。

Σ の記号については3乗の和の公式まで取り扱いました。また、階差数列や、いろいろな数列の和を求める考え方を示しました。

漸化式については基本的な例からていねいに説明しました。さまざまなパターンの解法については、「探究編」で考察できるようにしました。

数学的帰納法については基本的なパターンを一通り紹介しました。

第2章 統計的な推測

確率変数についての様々な性質を1つ1つ丁寧にまとめることで、確実に理解しながら読み進めることができる構成としました。

また、各事項の導入ではなるべく具体例から扱うことで、学習内容のイメージがつかみやすくなるように配慮しました。特に、仮説検定の導入では、日常的な話題から入ることで、検定の手順が理解しやすくなるようにしました。

第3章 数学と社会生活

オリンピックの100mの優勝者の記録という題材や、「客に指定された飼育場を作る」というストーリー性のある話題を扱うことで、生徒が興味を持って読み進めることができるようにしました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 数列	(1)	p. 5～44, 116～123	29
第1節 等差数列・等比数列	(1)ア(ア), イ(ア)	p. 6～18	8
第2節 いろいろな数列	(1)ア(イ), イ(ア)	p. 19～30	8
第3節 漸化式と数学的帰納法	(1)ア(ウ)(エ), イ(イ)(ウ)	p. 31～39, 41	8
探究編 第1章 数列	(1) ア(ア)(ウ), イ(イ)	p. 116～123	3
第2章 統計的な推測	(2)	p. 45～98, 124～127	33
第1節 確率分布	(2)ア(イ)(ウ), イ(ア)	p. 46～62	11
第2節 正規分布	(2)ア(ウ), イ(ア)	p. 63～74	7
第3節 区間推定と仮説検定	(2)ア(ア)(エ), イ(イ)	p. 75～96	11
探究編 第2章 統計的な推測	(2)ア(イ)(ウ)(エ), イ(ア)	p. 124～127	2
第3章 数学と社会生活	(3)	p. 99～114	12
第1節 数学と社会生活	(3)ア(ア)(イ), イ(ア)(イ)(ウ)(エ) ／内容の取扱い(3)(4)	p. 99～111	10
			74

上記の配当時数について、標準単位数に対応する単位時間より少なく設定しております。それにより、上記時間以外に、調べ学習や話し合い学習など、学校の創意工夫による幅を持たせた授業を展開できるようにしています。

① 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-150	高等学校	数学	数学B	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数B709	深進 数学B		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
p. 40	隣接3項間の漸化式	2	(1)ア(ウ) 漸化式に関連して、隣接3項間の漸化式を扱います。	1
p. 112	公開鍵暗号を支える数学	2	(3)ア(イ) 公開鍵暗号の話題に関連して、合同式を扱います。	2
			合 計	3

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-136	高等学校	数学	数学Ⅲ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
61 啓林館	数Ⅲ707	深進 数学Ⅲ		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい例や説明から始めて、学習の便宜を考え、例題は精選して取り扱い、計算力はもちろん、数学の見方や考え方を理解し、数学の知恵も養えるように配慮して編修しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色（号番号は教育基本法を表す）	該当箇所
教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識をもって学習に臨めるよう、各章扉にその章で学習する内容に関する身の回りの話題や素朴な疑問を記載し、自主及び自律の精神を養えるようにしました。(第2号) ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「コア編」と「探究編」の2部構成として学習内容を習熟度に合わせて選択できるようにしました。(第1号) 	<p>p. 5, 29, 67, 123</p> <p>p. 5～176と p. 177～193</p>
巻頭	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第2号) 	p. 2～4

第1章 数列の極限	<ul style="list-style-type: none"> ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、合わせ鏡で像が連続して見える話題を取り上げました。(第2号) ・他国を尊重するという観点から、古代ギリシャの哲学者が考察したと伝えられる話題を取り上げました。(第5号) 	p. 6 p. 28
第2章 関数と その極限	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識を身に付けるという観点から、発散する速さの違いを扱いました。(第1号) ・生命を尊び、自然を大切にするという観点から、自然界に見られるフラクタル図形を取り上げました。(第4号) 	p. 63 p. 66
第3章 微分法	<ul style="list-style-type: none"> ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、サイクロイド曲線の性質を取り上げました。(第2号) ・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、容器の設計の話題を扱いました。(第3号) 	p. 122 p. 111
第4章 積分法	<ul style="list-style-type: none"> ・生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から、個体数の増減のモデルについての話題を取り上げました。(第4号) 	p. 176
巻末	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、漸化式で表された数列の極限について、グラフを用いた考え方を扱いました。(第1号) ・幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、対数微分法を扱いました。(第1号) ・真理を求める態度を養うという観点から、立体を様々な角度から切って体積を求める話題を扱いました。(第1号) ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、中間値の定理を利用してゴムひもやジェットコースターを考察することを扱いました。(第2号) ・他国を尊重するという観点から、内容に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) ・主な数学用語の英語表現を示しました。(第5号) 	p. 178～179 p. 182～185 p. 192～193 p. 180～181 p. 196～197 p. 198
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特徴		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-136	高等学校	数学	数学Ⅲ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数Ⅲ707	深進 数学Ⅲ		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

(1) 2部構成にすることで、学習進度に応じた使用ができるようにしました。

必要な知識や技能を身につけるための「コア編」と、そこで身につけた知識や技能を深めるための「探究編」という2部構成にすることで、基礎から応用まで、様々なレベルに応じた学習ができるようにしました。また、「コア編」から「探究編」へのリンクを入れることで、スムーズな学習ができるよう心がけました。

(2) 例や例題を多く取り上げ、学習内容を総合的に理解できるように配慮しました。

本文をより深く理解することを助けるために、多くの例を取り上げて説明するように努めました。さらに、その知識の定着と応用力をつけるための例題を積極的に取り上げました。また、スパイラルに学習展開がなされるように配列を工夫しました。

(3) 図版や色刷りを効果的に用いて、説明は簡潔に要領よくまとめました。

文章の説明だけではわかりづらい内容については、図を用いてスムーズな理解ができるようにしました。また、問題に取り組む際の思考の過程を本文に書き添え、解決に至る道筋がわかりやすくなるようにしました。さらに、カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から、誰にでも見分けられる色使いを心がけました。

(4) 枠囲みや下線などを利用し、学習の内容や要点がわかりやすい紙面構成にしました。

小見出しを適切に配置して、内容ごとのまとまりが明確になるよう心がけました。また、枠囲みを利用して学習の要点が一目でわかるようにしました。さらに、用語についてはそれを解説している部分に下線を引き、その用語が指す内容を適切に理解できるようにしました。そして、既習事項にはマークをつけることで、軽重をつけた扱いができるようにしました。

(5) 総合的な応用力を養えるように、問題の配置を工夫しました。

例、例題の後の「問」で学習内容の理解と定着をはかり、「節末問題」、「章末問題A」、「章末問題B」と段階を追って学習を進めることで、総合的な応用力を養えるようにしました。また、理数教育の重視の観点から、進んだ内容を研究として取り上げました。

(6) 学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。

QRコードを学習効果が図れる場面に適宜入れ、関連事項や解説などを見ることができるようにし、生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」からの連絡を考慮して、「数列の極限」「関数とその極限」「微分法」「積分法」の順に配列しました。「課題学習」については、柔軟な取り扱いができるように「探究編」に配置しました。各章および課題学習において留意した点は次の通りです。

第1章 数列の極限

無限数列を導入し、数列の極限の概念を説明し、具体的な無限数列について収束や発散を調べ、極限を求めることができるようにしました。無限級数の収束、発散を調べ、無限等比級数などの簡単な無限級数の和を求めることができるようにしました。

「探究編」では、漸化式で表された数列の極限を調べる方法について考察しました。

第2章 関数とその極限

分数関数と無理関数及びそれらのグラフの特徴について触れ、分数関数や無理関数を含む方程式や不等式を解くことにグラフを活用しました。逆関数と合成関数の意味を理解し、簡単な関数の逆関数や合成関数を求めることができるようにしました。

関数の極限の概念を説明し、関数の極限を調べたり、関数の極限が有限確定値になる場合の関数の係数を定める問題を扱ったり、少し複雑な関数の極限についての考察もしました。指数関数、対数関数、三角関数の極限を調べたり、関数の連続性を調べたり、連続関数の性質についての考察もしました。

「探究編」では、中間値の定理を利用して身のまわりの問題を解決する方法について考察しました。

第3章 微分法

関数の微分可能性を考え、関数の和、差、積及び商の導関数を求めることができるようにしました。合成関数と逆関数の微分法を理解し、合成関数の導関数や逆関数の導関数を求めることができるようにしました。また、陰関数で定められた関数や媒介変数表示された関数の導関数を考えました。

三角関数・対数関数・指数関数の導関数を求めることができるようにしました。また、高次導関数に触れました。導関数の応用として、接線の方程式や法線の方程式を求めたり、平均値の定理を不等式の証明に利用したり、関数の極大・極小を調べて極値を求めたりすることができるようにしました。楕円の接線の方程式を扱う際は、楕円は数学Cで学習する内容であることから、数学Cとの接続を考慮し、こちらにも楕円の説明を記述しました。

関数のグラフの凹凸なども調べてグラフの概形をかくことを扱いました。さらに、関数の最大値・最小値を求めたり、方程式・不等式へ応用したり、直線上の点の運動や平面上の点の運動の速度及び加速度について考察したり、関数の近似式を使って近似値を求めたりしました。

「探究編」では、対数微分法やロピタルの定理について考察しました。

第4章 積分法

不定積分の基本的な性質についての理解を深め、分数関数、指数関数、三角関数の不定積分を求めることができるようにしました。置換積分法、部分積分法について理解し、簡単な場合の不定積分を置換積分法、部分積分法を用いて求めることができるようにしました。

続いて、定積分においても、不定積分と同様に、いろいろな関数の不定積分を工夫して求めることができるようにしました。積分の応用として、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積を、定積分を用いて求めることができるようにしました。続いて、積分の考えを使って体積を求めることができることを説明し、いろいろな立体の体積を、定積分を用いて求めることができるようにしました。最後に、曲線の長さを、積分を使って求めることができるようにしました。

「探究編」では、立体の体積を求める際の切り方について考察しました。

課題学習

身近な題材や、自分で新しい問題や考え方を作る問題を取り上げ、主体的な学習につながるようにしました。

2. 対照表			
図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 数列の極限	(1)ア(ア)(イ), イ(ア)(ウ)	p. 5~28, 178~179	13
第1節 無限数列	(1)ア(ア), イ(ア)	p. 6~17	6
第2節 無限級数	(1)ア(イ), イ(ウ)	p. 18~26	5
探究編 第1章 数列の極限	(1)ア(ア), イ(ア)	p. 178~179	1
第2章 関数とその極限	(1)ア(ウ)(エ)(オ), イ(イ)(ウ)	p. 29~66, 180~181	21
第1節 分数関数と無理関数	(1)ア(ウ)(エ), イ(イ)	p. 30~43	8
第2節 関数の極限と連続性	(1)ア(オ), イ(ウ)	p. 44~63	10
探究編 第2章 関数とその極限	(1)ア(オ)	p. 180~181	1
第3章 微分法	(2)	p. 67~122, 182~189	34
第1節 微分と導関数	(2)ア(ア)(イ), イ(イ)	p. 68~82	8
第2節 いろいろな関数の 導関数	(2)ア(ウ), イ(ア)	p. 83~90	4
第3節 導関数の応用	(2)ア(エ), イ(ウ)	p. 91~109	10
第4節 いろいろな応用	(2)ア(エ), イ(ウ) ／内容の取扱い(1)	p. 110~119	7
探究編 第3章 微分法	(2)ア(ア)(ウ)(エ), イ(イ)(ウ)	p. 182~186, 188~189	3
第4章 積分法	(3)	p. 123~172, 190~193	27
第1節 不定積分	(3)ア(ア)(イ), イ(ア) ／内容の取扱い(2)	p. 124~135	6
第2節 定積分	(3)ア(ア)(イ), イ(ア) ／内容の取扱い(2)	p. 136~151	8
第3節 積分法の応用	(3)ア(ウ), イ(イ)(ウ)	p. 152~170	10
探究編 第4章 積分法	(2)ア(ウ), イ(イ)(ウ)	p. 190~193	2
			95

上記の配当時数について、標準単位数に対応する単位時間より少なく設定しております。
それにより、上記時間以外に、調べ学習や話し合い学習など、学校の創意工夫による幅を持たせた授業を展開できるようにしています。

① 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-136	高等学校	数学	数学Ⅲ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数Ⅲ707	深進 数学Ⅲ		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
p.173～176	微分方程式	2	(3)イ(ウ) 微分と積分の関係に着目し、事象を数学的にとらえ、問題を解決することに関連して、微分方程式を扱います。	4
p.186～187	ロピタルの定理	2	(2)イ(ウ) 関数の局所的な変化や大域的な変化に着目することに関連して、関数の極限値を求めるときの1つの手段としてのロピタルの定理を扱います。	1.5
			合 計	5.5

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容

① 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-164	高等学校	数学	数学C	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数C707	深進 数学C		

1. 編修の基本方針

- (1) 学習指導要領の目標の達成を期し、わかりやすい例や説明から始めて、学習の便宜を考え、例題は精選して取り扱い、計算力はもちろん、数学の見方や考え方を理解し、数学の知恵も養えるように配慮して編修しました。
- (2) 教師が、学習目標や指導内容を正しくとらえ、生徒の実態に応じて創意工夫をこらした指導ができるように配慮しました。
- (3) 生徒が、学習内容に興味・関心をもち、自発的・意欲的な学習活動ができるように配慮しました。



2. 対照表

教育基本法 第二条 教育の目標

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色（号番号は教育基本法を表す）	該当箇所
教科書全体	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識をもって学習に臨めるよう、各章扉にその章で学習する内容に関する身の回りの話題を記載し、自主及び自律の精神を養えるようにしました。(第2号) ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、「コア編」と「探究編」の2部構成として学習内容を習熟度に合わせて選択できるようにしました。(第1号) 	<p>p. 5, 63, 91, 127</p> <p>p. 5～142と p. 143～161</p>
巻頭	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭には「本書の構成と使い方」を設け、自ら進んで学習する態度をはぐくめるようにしました。(第2号) 	p. 2～4

<p>第1章 ベクトル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、ベクトルを用いて図形の性質を調べる問題を取り上げました。(第1号) ・健やかな身体を養うことと、職業及び生活との関連を重視するという観点から、綱引きの話題を扱いました。(第1号、第2号) ・生命を尊ぶという観点から、道路標識の話題を扱いました。(第4号) 	<p>p. 33, 52</p> <p>p. 62</p> <p>p. 5</p>
<p>第2章 複素数平面</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うという観点から、複素数の計算とその複素数平面上での図形的意味を関連づけて扱うようにしました。(第1号) ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、電気回路の話題を取り上げました。(第2号) 	<p>p. 66, 71</p> <p>p. 90</p>
<p>第3章 平面上の曲線</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、懐中電灯で壁を照らしたときの光や、凹面鏡の話題を扱いました(第2号) ・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、高速道路の設計の話題を扱いました。(第3号) ・環境の保全に寄与する態度を養うという観点から、地球の公転軌道の話題を扱いました。(第4号) 	<p>p. 91, 109</p> <p>p. 126</p> <p>p. 110～111</p>
<p>第4章 数学的な表現 の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、電気、ガス、水の使用量や、飛行機の航路、バスの乗り継ぎの話題を扱いました。(第2号) ・公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うという観点から、体育係の話題や、不良品の原因、今後の販売戦略の話題を扱いました。(第3号) ・生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養うという観点から、植物の発芽率の話題を扱いました。(第4号) ・伝統を尊重し、他国を尊重するという観点から、ケーニヒスベルクの橋の話題を扱いました。(第5号) 	<p>p. 128～132, 134～135</p> <p>p. 136, 139～140</p> <p>p. 137</p> <p>p. 127</p>
<p>巻末</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い知識と教養を身に付けるという観点から、基準点や極のとり方による解法の違いを扱いました。(第1号) ・職業及び生活との関連を重視するという観点から、GPS、宝探し、双曲線航法の話題を扱いました。(第2号) ・他国を尊重するという観点から、内容に関連した数学者を、その年代を示した年表とともに紹介しました。(第5号) ・主な数学用語の英語表現を示しました。(第5号) 	<p>p. 144～145 160～161</p> <p>p. 150～151, 154～157,</p> <p>p. 164～165</p> <p>p. 166～167</p>
<p>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特徴</p>		

① 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-164	高等学校	数学	数学C	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教 科 書 名		
61 啓林館	数C707	深進 数学C		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①構成

(1) 2部構成にすることで, 学習進度に応じた使用ができるようにしました。

必要な知識や技能を身につけるための「コア編」と, そこで身につけた知識や技能を深めるための「探究編」という2部構成にすることで, 基礎から応用まで, 様々なレベルに応じた学習ができるようにしました。また, 「コア編」から「探究編」へのリンクを入れることで, スムーズな学習ができるよう心がけました。

(2) 例や例題を多く取り上げ, 学習内容を総合的に理解できるように配慮しました。

本文をより深く理解することを助けるために, 多くの例を取り上げて説明するように努めました。さらに, その知識の定着と応用力をつけるための例題を積極的に取り上げました。また, スパイラルに学習展開がなされるように配列を工夫しました。

(3) 図版や色刷りを効果的に用いて, 説明は簡潔に要領よくまとめました。

文章の説明だけではわかりづらい内容については, 図を用いてスムーズな理解ができるようにしました。また, 問題に取り組む際の思考の過程を本文に書き添え, 解決に至る道筋がわかりやすくなるようにしました。さらに, カラーユニバーサルデザイン(CUD)の観点から, 誰にでも見分けられる色使いを心がけました。

(4) 枠囲みや下線などを利用し, 学習の内容や要点がわかりやすい紙面構成にしました。

小見出しを適切に配置して, 内容ごとのまとまりが明確になるよう心がけました。また, 枠囲みを利用して学習の要点が一目でわかるようにしました。さらに, 用語についてはそれを解説している部分に下線を引き, その用語が指す内容を適切に理解できるようにしました。そして, 中学校での既習事項にはマークをつけることで, 軽重をつけた扱いができるようにしました。

(5) 総合的な応用力を養えるように, 問題の配置を工夫しました。

例, 例題の後の「問」で学習内容の理解と定着をはかり, 「節末問題」, 「章末問題A」, 「章末問題B」と段階を追って学習を進めることで, 総合的な応用力を養えるようにしました。また, 理数教育の重視の観点から, 進んだ内容を研究として取り上げました。

(6) 学習の中でICTを有効に活用できるようにしました。

QRコードを学習効果が図れる場面に適宜入れ, 関連事項や解説などを見ることができるようにし, 生徒の主体的な学習をサポートできるようにしました。

②内容

「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」「数学B」「数学Ⅲ」との連絡を考慮し、「ベクトル」「複素数平面」「平面上の曲線」「数学的な表現の工夫」の順に配列しました。各章において留意した点は次の通りです。

第1章 ベクトル

ベクトルの内積については、その図形的意味も扱い、多面的な見方ができるようにしました。

交点の位置ベクトルを求める問題では、内分点を $t: (1-t)$ と表すことができる説明をわかりやすく工夫しました。また、「探究編」では、基準となる点は自由に設定できることを扱いました。

第2章 複素数平面

複素数平面を導入し、複素数の和、差、実数倍の図示がベクトルの和、差、実数倍の図示の場合と同様であることを示しました。また、和、差が複素数平面上の点の平行移動になること、2点間の距離が差の絶対値になることを示しました。複素数を極形式で表すことを示し、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味が理解できるようにし、ド・モアブルの定理を扱いました。

次に、図形を複素数の集合としてとらえ、内分点・外分点、点 α のまわりの回転、2つの半直線のなす角、等式の表す図形について考察しました。

第3章 平面上の曲線

放物線、楕円、双曲線を幾何学的な定義に基づいて導き、それらが2次式で表されることを示し、2次曲線の基本的な性質について触れました。

2次曲線の平行移動や、2次曲線と直線の共有点の個数について考察し、続いて離心率について考察しました。曲線を表す式として媒介変数を用いた式や極方程式を取り上げ、それらをいろいろな曲線で考察し、活用できるようにしました。

第4章 数学的な表現の工夫

日常的な話題と絡めて、行列や有効グラフを扱い、それらの関連について学ぶ、という構成にしました。また、統計グラフでは、これまで学習してきた棒グラフや円グラフ、折れ線グラフ等のほかにも、パレート図やバブルチャート、ヒートマップがあることを紹介しました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
第1章 ベクトル	(1)	p. 5～62, 144～151	30
第1節 ベクトルとその演算	(1)ア(ア)(イ), イ(ア)(イ)	p. 6～27	10
第2節 ベクトルと図形	(1)ア(ア)(イ), イ(ア)(イ)(ウ)	p. 28～40	7
第3節 空間のベクトル	(1)ア(ウ), イ(ア)(イ)(ウ)	p. 41～58	7
探究編 第1章 ベクトル	(1)ア(イ)(ウ), イ(イ)(ウ)	p. 144～146, 148, 150～151	4
第2章 複素数平面	(2)ア(エ)(オ), イ(イ)(ウ)	p. 63～90, 152～155	18
第1節 複素数平面	(2)ア(エ)(オ), イ(イ)	p. 64～77	8
第2節 平面図形と複素数	(2)イ(イ)	p. 78～87	6
探究編 第2章 複素数平面	(2)イ(ウ)	p. 152～155	2

第3章 平面上の曲線	(2) ア(ア)(イ)(ウ), イ(ア)(ウ)	p. 91~126, 156~161	22
第1節 2次曲線	(2)ア(ア), イ(ア)	p. 92~111	10
第2節 媒介変数と極座標	(2)ア(イ)(ウ), イ(ア)	p. 112~123	7
探究編 第3章 平面上の曲線	(2)ア(ア)(イ)(ウ), イ(ウ)	p. 156~161	3
第4章 数学的な表現の工夫	(3)	p. 127~142	11
第1節 数学と日常生活	(2)ア(イ), イ(ア) ／内容の取扱い(2)(3)	p. 128~135	8
第2節 統計グラフの利用	(2)ア(ア), イ(ア) ／内容の取扱い(2)(3)	p. 136~141	2
			81

上記の配当時数について、標準単位数に対応する単位時間より少なく設定しております。
それにより、上記時間以外に、調べ学習や話し合い学習など、学校の創意工夫による幅を持たせた授業を展開できるようにしています。

① 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-164	高等学校	数学	数学C	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
61 啓林館	数C707	深進 数学C		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
p. 147	直線の方程式	2	(1)ア(ウ) ベクトルの考えが平面から空間に拡張できることに関連して、空間における直線の方程式を扱います。	1
p. 148	原点を基準とする位置ベクトル	2	(1)ア(ウ) ベクトルの考えが平面から空間に拡張できることに関連して、空間における原点を基準とした位置ベクトルを扱います。	0.5
p. 149	空間における平面の方程式	2	(1)ア(ウ) ベクトルの考えが平面から空間に拡張できることに関連して、空間における平面の方程式を扱います。	1
p. 153	一次分数変換	2	(2)イ(イ) 複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算の意味を考察することに関連して、一次分数変換を扱います。	0.25
合 計				2.75

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容